

ここで、 C : 物体が基準となる位置にある場合に対応する紙面上の点の間隔、 R : ずらすための定数(値が大きいとき、飛び出し方や引っ込み方が大きくなる)です。

(2)ランダムドット・ステレオグラムの見方

ランダムドット・ステレオグラムの上方に、以下の図 9-8(a)の状態の2つの点があります。

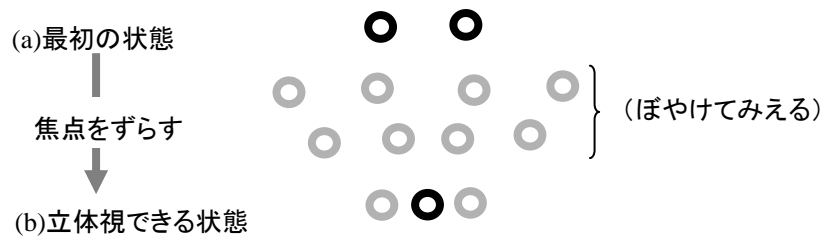


図 9-8 ランダムドット・ステレオグラムの上の点

目をリラックスさせた状態で紙面に視線を向け、平行法の場合は、紙面より先のほうへ、交差法の場合は、紙面より手前のほうに焦点を合わせるように見ると、これがぼやけて見えます。

ぼやけた円が 2 個、中央にはっきりした円が 1 個に見えるように目の焦点をずらすと((b)の状態)、ステレオグラムが立体に見えてきます。経験のない方は、以下の例でやってみましょう。この例は、後で示すプログラムで描いたものです。

